

災害廃棄物の試験焼却結果

6月5日に行った災害廃棄物の試験焼却の結果が出ましたので、報告します。

試験焼却の実施

6月5日、市は市民立ち会いのもと、岩手県山田町の災害廃棄物である、柱材や角材などを細かくした木材チップの試験焼却を実施しました。試験焼却では、木材チップ15トンと市一般可燃ごみ85トンと混合して(混合率15%)焼却しました。この試験焼却で、排ガス中の放射性セシウム濃度が安全な水準か、焼却灰の放射性セシウム濃度が問題なく埋め立てできるレベルかどうかを調べるため次の項目を検査しました。

♀ 試験焼却での主な検査項目

- ① 市が受け入れた木材チップの放射性セシウム濃度や空間線量率
- ② 市の一般可燃ごみの放射性セシウム濃度
- ③ 木材チップと一般可燃ごみを混ぜた混合ごみの放射性セシウム濃度
- ④ 焼却灰の放射性セシウム濃度や空間線量率、重金属類溶出検査
- ⑤ 環境クリーンセンター周辺土壌の放射性セシウム濃度や空間線量率
- ⑥ 焼却時に発生する排ガスの放射性セシウム濃度やダイオキシン類など

試験焼却の結果

♀ 一般可燃ごみのみの焼却時と変わらない

木材チップと富士市の一般可燃ごみを混ぜた焼却灰の放射性セシウム濃度は、主灰が1キログラム当たり14ベクレル、飛灰が1キログラム当たり132ベクレル検出されました。3月12日に行った市の一般可燃ごみ焼却灰の測定結果は主灰が不検出、飛灰が1キログラム当たり104ベクレルでした。

この結果から、岩手県山田町の木材チップを混ぜて焼却しても、市の一般可燃ごみとほとんど変わらない数値が示されたと考えています。

♀ 広域処理の基準内の数値

国が定める焼却灰の広域処理の基準値は、放射性セシウム濃度が1キログラム当たり8000ベクレル以下です。

今回の試験焼却から得たデータは広域処理の基準をはるかに下回る数値でした。

広域処理とは

被災地の災害廃棄物を迅速に処理するために、全国の自治体にある既存施設で処理することです。岩手・宮城の両県では、全力で災害廃棄物の処理を行っています。処理能力はまだ不十分です。

被災地の日も早い復興に向け、災害廃棄物の早急な処理が必要とされています。

今後の予定

試験焼却したデータは、放射能の専門家に検証をお願いしています。検査結果をもとに、焼却灰を埋め立てる依頼を最終処分場関係者へ正式に行うとともに、最終処分場と環境クリーンセンター周辺地区住民や町内会連合会、富士市民全体を対象とした説明会を開催し、市民の皆さんの意見を伺い、その上で災害廃棄物の受け入れの可否を判断していきます。



岩手県山田町の木材チップ



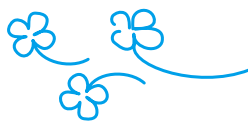


環境クリーンセンターの炉に投入

木材チップを一般可燃ごみと混ぜる



木材チップに異物がまざっていないかを確認



問い合わせ 廃棄物対策課

☎(55)2770 ☎(51)0522

試験焼却の詳しい結果は、市ウェブサイトでごらんになれます。また、説明会の実施は7月下旬〜8月中旬を予定しています。日程が決まり次第、チラシ（町内会を通じて回覧）や市ウェブサイトをなどでお知らせします。

放射性セシウム濃度測定結果

単位：1 キログラム当たりのベクレル

放射性セシウム濃度の検査項目		採取日	セシウム 134	セシウム 137	セシウム 合計
木材チップ（コンテナ（8台）ごとに測定した最大値）		6月5・6日	5	9	14
一般可燃ごみと木材チップを混合したもの		6月5日	3	5	8
通常の一般可燃ごみの焼却灰	主灰	3月12日	不検出(15)	不検出(14)	不検出
	飛灰		41	63	104
一般可燃ごみと木材チップを混合したごみの焼却灰	主灰	6月6日	不検出(10)	14	14
	飛灰		51	81	132
環境クリーンセンター周辺（約1キロメートル圏内）の土壌	広見小学校	3月16日	不検出(13)	14	14
		6月5日	不検出(9)	不検出(8)	不検出
	青葉台小学校	3月16日	10	11	21
		6月5日	不検出(7)	9	9
	富士総合運動公園	3月16日	不検出(21)	28	28
		6月5日	不検出(19)	18	18
	片倉児童遊び場	3月16日	不検出(8)	不検出(12)	不検出
		6月5日	14	12	26
	消防大淵分署	3月16日	17	38	55
		6月5日	不検出(13)	23	23
	市立博物館北側	3月16日	95	187	282
		6月5日	不検出(26)	66	66
焼却炉の電気集塵器（すすなどを取り除く装置）入口の排ガス	ろ紙部	6月5日	0.26	0.72	0.98
	ドレン部		不検出(0.37)	不検出(0.43)	不検出
焼却炉煙突の排ガス	ろ紙部	6月5日	不検出(0.27)	不検出(0.23)	不検出
	ドレン部		不検出(0.46)	不検出(0.63)	不検出

※「セシウム134」「セシウム137」は国が検査対象に定めた物質で、数値によって人体に影響を与えるおそれがあるとされています。

※検査結果欄の「不検出」は検出限界値を下回っていることを表していて、数値はゼロではありません。また、カッコ内の数値は検出限界値を表しています。検出限界値がそれぞれ異なっているのは、試料密度などの状況によって変動するためです。

※焼却炉の「ろ紙部」とは、煙にまじった固体状の粉じんを採取する部分で、「ドレン部」とは、排ガス中の気体状の物質を採取する部分です。

環境クリーンセンター周辺の空間線量率（6月5日測定）

単位：毎時シーベルト

測定場所	高さ 1メートル	高さ 50センチメートル	地面の状態	測定場所	高さ 1メートル	高さ 50センチメートル	地面の状態
広見小学校	0.05	0.05	土	片倉児童遊び場	0.04	0.04	土
青葉台小学校	0.05	0.06	土	消防大淵分署	0.05	0.05	アスファルト
富士総合運動公園	0.03	0.03	芝生	市立博物館北側	0.03	0.03	土